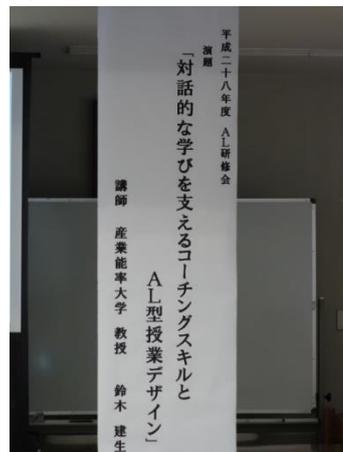


## 第2回アクティブ・ラーニング（以下AL）研修会実施報告

日時 平成28年9月27日（火）  
場所 多治見高校 桔梗会館1階  
参加者 本校職員37名 各務原西高校2名 大垣南高校3名  
講師 産業能率大学 経営学部 鈴木 建生 先生  
テーマ ① 「AL型授業で活用する対話の技法とトレーニング」  
② 協同学習を通してAL型授業をデザインする



### 実施内容

まず、ALのキーワードとなる「主体的・対話的で深い学びの実現」、授業時におけるリフレクション（振り返り）の必要性、保護者や地域に対しての情報開示。共有化などALを行っていくうえでの必要となる知識や約束事などをお話していただきました。

その後、前半の講義にて、キーワードの一つである「対話的」について焦点を絞り、テーマ①について体験的な活動を通しながら説明していただきました。



### 体験的学習1 コーチング

ルール ①傾聴（やる気） ②質問（自発的行動） ③承認（目的確認）を心がける。

隣の席の人とペアを組み「コーチング」を体験してみました。テーマは「前期の自分の授業を点数化すると…」です。

以下のように一連の流れが決まっており、話し手もスムーズに話すことができました。その後、グループでのリフレクションを通して、互いの考え等を聞き意見交流しました。この一連の流れをすることで深い学びにつながるということです。



**コーチング ミニセッション**

コーチ	クライアント
①「前期を振り返って点数をつけるとすれば何点ですか？」	②「※点くらいかな」
③「その得点の内容を聞かせて下さい。」(しっかり承認)	④「というのは……」
⑤「先生が思われる10点満点といえる状態ってどんなイメージですか。具体的には…」(傾聴)	⑥「そうですね…10点満点のイメージ……」
⑦「では、その状態に近づくために後1点上げるとしたら具体的に何ができますか？」	⑧「1点あげるとすれば…」
⑨「なるほど…」(傾聴)	

応援メッセージを送る。

また、グループ学習を行ううえでの、コツとして以下のことをおっしゃっていました。

コツ ① 目的 ② 目標 ③ 方法 ④ 時間 ⑤ 事後の予告（アウトプット）  
以上のことを明確にすることでより、効果的なグループ学習がすることができるようです。



この他にも、他社との対話（外向的対話）だけではなく、自己や課題との対話（内省的対話）についても、体験（互いに1分間見つめあい、相手のことを考えるなど）しながら教えていただきました。

どの体験も実際体験してみることで、対話とは何か、また、自己との対話の必要性などを知り、考えるきっかけとなるものであり、今後の授業に生かして取り組んでいけるものでした。

後半は、テーマ②について各自が持参した教科書を使用して、AL型授業をデザインしました。約束事は以下の5点です。

- ① 授業方針を生徒と共有できるように伝える。
- ② 態度的な目標と学習目標を明示して進める。
- ③ 授業ルールを確認して進める。
- ④ AL・協同学習の基本的プロセスを参考に。
- ⑤ 各グループ内で発表してよい点を指摘。後に質問対話をする。



前半の講義を生かし、傾聴、質問、承認をうまく使いながら、ギャラリーウォークや各グループで交流を生かして、AL型授業の内容に磨きをかけることができました。